受験番号

２０２４年度

神戸国際中学校　Ｂ－Ｉ選考

国　語

（2024 年 1 月 14 日実施、50 分、100 点満点）

（注意）

1　解答用紙と問題冊子の両方に、必ず受験番号を記入してください。

2　全ての問題に解答してください。

3　解答は全て解答用紙に記入してください。記入方法を誤ると得点にはならないので、十分に注意してください。

4　試験終了後、解答用紙と問題冊子の両方を提出してください。

一 次の文を読んで、後の問いに答えなさい。解答に字数の指定のある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。（本文に一部表記を改めたところがあります。）

中学や高校の勉強では、ずいぶん暗記をさせられた。歴史の年代や英単語、化学の※元素記号など、暗記しなければならないものは、山ほどあった。正直言って、暗記は好きではなかった。数学の問題を解くほうが、よほど楽しかった。暗記は、※さして意味もわからずに、（　A　）繰り返し覚えるだけだから、そう楽しいものであるはずがない。どうしてこんなにもたくさん暗記しなければならないのか。そう思うことがたびたびあった。

意味もわからずに、ただ暗記しても、しようがないだろうと思われがちだが、じっさいは、結構、暗記は役に立つ。中学のときの世界史で、中国の歴史を習うとき、まず、最初に歴代王朝の名称を丸暗記させられた。殷、周、秦、漢、隋、唐、……。それぞれの王朝がいつごろなのか、どんな時代だったのか、いっさい知らずに、ただただ覚えた。①そんなことをして何になるのだろうと思ったが、王朝の名称と時代順が頭に入っていると、そのあと学んだ具体的な※事象を整理し、※一望するのにすごく役に立った。中国の壮大な歴史の※全貌を頭のなかで一挙に思い浮かべてみるのは、なかなか爽快なものである。何十年もまえのことなので、もうはっきりとは王朝名を思いだせないが、②あのときの爽快感だけは、いまも明瞭に残っている。

日本人初のノーベル賞（物理学賞）の受賞者の湯川秀樹も、幼いころから漢文の素読を祖父にやらされたそうである。漢文の素読とは、意味もわからないまま、ただ漢文を声に出して読むことである。たとえば、※「北の冥に魚あり。其の名を鯤と為す。鯤の大きさ、その幾千里なるを知らず。化して鳥と為るとき、其の名を鵬と為す。……」（『荘子』）と声に出して読む。意味もわからずに、ただただ読む。それは湯川少年にとってなかなかつらいことであったようだが、その後、大人の書物を読み始めるときに、大いに役に立ったそうだ。漢字への慣れにより、文字への抵抗がまったくなかったのである。

このことに関連して、「③単純提示効果」という面白いaゲンショウがある。同じものに何度も接していると、それを好ましく感じるようになるというゲンショウだ。意味のわからないもの、（　B　）無意味な綴り（kuwjix のようなもの）でさえ、とにかく何度も接していると、bコウカン度が増してくる。人間は馴染みのないものには不安を抱き、慣れ親しんだものには安心感を抱く傾向がある。広告を繰り返すのも、この人間の心理を利用している。

お坊さんになる人はよく※経典の暗誦を行う。※「……色即是空空即是色　受想行識　亦復如是……」（『般若心経』）。漢文を書き下すこともなく、じかに音読みする。もちろん、意味はわからない。それでも、ひたすら繰り返し読み、おのずと暗誦していく。このような

一見、無意味にみえることが、あとで経典の内容を学ぶうえで、※すこぶる役に立つ。全文が頭に入っていることで、各部分の理解が容易になるのだ。

これと似たようなことは、私のcセンモンの哲学でも起こる。哲学を勉強しはじめたころ、哲学の本は難解なので、なかなか最初から順に理解していくことができなかった。理解しがたい箇所にぶつかると、とりあえずそれを読み飛ばしてつぎへ進んでいくしかない。そうすると、そのつぎの部分の理解が十分でなくなる。それでも、仕方ないから不十分な理解のまま、さらにさきへ読み進めていく。（　C　）、またしても理解しがたい箇所にぶつかる。このようなことを繰り返していると、そのうちほとんど意味がわからなくなり、もう読み進めることができなくなる。こうして途中で挫折する。しかし、挫折したままでは、哲学書全体の理解は叶わぬ夢になってしまう。

大事なことは、理解しようなどと思わずに、とにかく全文を読みきることだ。※なまじ理解しようと思うから、理解できなくなると、挫折する。最初から理解を求めなければ、最後まで読みきることができる。意味がわからなくても、文字面だけでも結構楽しいものがある。それを頼りにとにかく読む。そして繰り返し読む。もちろん、そうしたところで、わからない箇所が多すぎるから、「④読書百遍自ずから通ず」というわけにはいかない。それでも暗記するくらい繰り返し読んでおけば、そのあとdヒッシの理解を試みることで、何とか理解できるようになってくる。理解できないまま全文を読みきることが理解に至る必須の条件なのである。

それにたいして、数学はひとつずつ順に理解していける。いや（　D　）、そうやって理解を積み上げていかないと、全体が理解できない。⑤このような場合には、意味もわからずに全体を暗記する必要はない。しかし、哲学のように、順に理解していくことができないものもある。各部分がわかって全体がわかるのではなく、全体がわかってはじめて各部分がわかる。このような場合は、意味もわからずに全体を暗記するくらい、何度も全体に接する必要がある。それが理解に向けての出発点なのだ。意味を気にせず、とにかく声を出して読む。文字を絵画のように楽しみ、音を音楽のように楽しむ。これが理解へと至る※要諦なのである。

（　信原幸弘　『「覚える」と「わかる」』　）

※元素記号…化学的にそれ以上分解できない物質につけたそれぞれの特定の記号番号。
※さして…たいして。
※事象…観察できる形をとって現れるもの。
※一望する…ひと目に見渡すこと。
※全貌…ものごとの全体の様子、姿。
※「北の冥に魚あり。其の名を鯤と為す。鯤の大きさ、その幾千里

なるを知らず。化して鳥と為るとき、其の名を鵬と為う。……」

…「北の海に魚がいました。その名前を鯤と言いました。鯤の大きさは、どれくらい大きいかはわかりません。姿が変わって鳥になったとき、その名前を鵬と言いました。…」。

※経典…仏教のことについて書かれている文を記した書物。

※「……色即是空　空即是色　受想行識　亦復如是……」

…「般若心経」という仏教の本質を短くまとめた書物に書かれている文章。

※すこぶる…程度がはなはだしいさま。たいそう。

※なまじ…あることをすると仮定して、無理にそうしない方がよいさま。～すればかえって。

※要諦…物事の最も大切なところ。

問１　＝ａ～ｄのカタカナを漢字に直しなさい。

問２　（　Ａ　）～（　Ｄ　）に入る適当な語を次のア～オから一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア　すると　イ　ただ　ウ　むしろ　エ　たとえば　オ　さらに

問３　―①「そんなこと」とは、どのようなことですか。二十字以内で答えなさい。

問４　―②「あのときの爽快感」とありますが、「あのとき」とはどのようなときのことですか。本文中のことばを使って六十字以内で答えなさい。

問５　―③「単純提示効果」とありますが、どのような効果のことですか。その例として適当でないものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　いつも行っているコンビニエンスストアの店員さんを、何となく親しみ深く思う。

イ　インターネットで調べていると、広告として何度も表示されている商品を買ってしまった。

ウ　テレビのコマーシャルでよく見かけるタレントを、気がつくと自然と応援してしまう。

エ　ダンスなどのからだの動きを取り入れると、意味のわからない単語を覚えやすくなった。

問６　―④「読書百遍自ずから通ず」の意味として適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　難しい本も何度も読むと自然に理解できるようになる。
イ　読書を百回すると自分のことがわかるようになる。
ウ　本は見ずに唱えられるまで何回も読まなければならない。
エ　本を覚えるくらい読んでこそ自分の身についたと言える。

問7　―⑤「このような場合」とありますが、どのような場合ですか。三十字以内で答えなさい。

問8　本文の内容として適当でないものを次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　哲学などを順番に理解していくことは難しいため、まず意味がわからなくても全体を暗記していくことが有効である。
イ　意味もわからず暗記することは無駄なことのように思えるが、すべての学問に通じる重要な方法として昔から伝え続けられている。
ウ　全体がわかってから各部分への理解へと進んでいくために、意味もわからず暗記することが全体に接していくことになり大事である。
エ　順番に理解していくことが可能な数学は、全体を理解するために意味もわからず全体を暗記する必要などない。
オ　お坊さんの経典の暗誦は意味もわからず音読を繰り返し、全文を頭に入れることで、各部分への理解を容易にしている。

二　次の本文を読んで、後の問いに答えなさい。解答に字数の指定のある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。（本文に一部表記を改めたところがあります。）

小学4年生の植野チヅルは、入院した担任の先生の代理で来た先生に良く思われておらず、同じ組の花村マユミともあまりうまくいっていない。そのような中で国語のテストがあった。

「ねえ、習っていない漢字がいくつもあるよね」
といわれたときも、すぐにはわけがわからなかった。
気がつくと、教室のあちこちで、みんなもざわざわと囁（ささや）きあっていた。
そういえば、かけない漢字がいくつもあったっけっと、やっぱりボーッとしていると、
「黙って、テストをしろ。なにを騒いでいるんだ！」
教壇のうえのイスに座って、本を読んでいた三原センセーが立ちあがり、
①まるで磁石にひきよせられるように、チヅルのほうを見た。
（やられる）
とチヅルがハッとして（　A　）をすぼめるのと、
「植野、また、おまえが私語してるのか！」

と三原センセーがいうのは同じくらいだった。

ざわざわしていた教室はすぐにシンとなり、隣近所と囁きあっていたみんなはぱっと俯いて、テストの続きをはじめた。

（　B　）鉛筆を走らせる音だけが、ひどくはっきりと響いてきて、チヅルはふいに吐きそうになった。鉛筆の音はどんどんおおきくなっていって、その音に押しつぶされそうだった。②チヅルは歯をくいしばって、俯いていた。

やがてテストがオワッテ、センセーが黒板に正解を書きはじめて、自己採点がはじまったとき、チヅルは筆箱から、青鉛筆をだして採点した。点数は85点だった。

テストの上のほうに青鉛筆で85点と書き、赤鉛筆をだして85点をわざと消して、でかでかと0点と書きなおした。

「植野、これはどうしたんだ」

出席番号順に提出することになって、チヅルが女子の一番手でテストを返しにゆくと、③三原センセーもさすがに驚いたのか、顔をあげた。

「シゴしてたから、0点です」

チヅルは言葉につまりそうになりながら、ようやくそれだけをいって、急いで席に戻った。

イスに座ったとたん、思わず涙が出てきそうになったので、あわてて机につっぷした。

みぞおちのあたりがジクジクと痛んできて、ほんとに吐きそうなほど気分が悪かった。その日は一日じゅう、みぞおちが痛くて、授業どころではなかった。

掃除当番だったのだけれど、とても掃除どころではなく、早く家に帰りたい一心で教室を出かかると、

「植野さん、当番……」

と呼びとめられて、ふり返ると、花村マユミだった。

チヅルは力いっぱい、目に力をこめてマユミを睨みつけてやった。マユミがみるみる泣きそうな顔になるのを見届けてから、チヅルはものもいわずに、ゆっくりと教室を出た。

その夜の夕ご飯は、おかずがチヅルの大好きな※ゲソ揚げだったけれど、チヅルはほとんど食べられずに残してしまった。

オトーサンは夜勤ででているので、清子と歌子とチヅルの三人だけで、歌子はテストがあるからというので、さっさと二階にいってしまった。

チヅルはチャブ台に、音楽の教科書とノートをひろげて、ぼんやりとノートをながめていた。宿題をしていれば清子の機嫌もいいし、ともかく、もう誰にも叱られたくないので、形だけでも勉強のフリをしようと思ったのだった。

※五線譜のノートを睨んでいると、五本の線がゆらゆらと揺れてくるようで、あわてて鼻をすすっていると、

「えらいね。宿題かい」

清子がなんとなく気をつかうふうな声で、※カルピスをもってきて隣にす

わった。
「宿題、音楽なのかい。チヅルはオルガン習ってたから、音楽は得意だもンね」
ノートを覗(のぞ)きこみながら、なんだか機嫌をとるようにいう清子をさえぎって、
「④おかあさん、チヅル、転校してもいいかな」
ふと気がつくと、チヅルはそういっていた。いいながら、自分でもびっくりしていた。
けれど、ほんとうにもう、うるさい教室を静かにさせるために、いつもいつも自分ばっかりが注意されるのがイヤだったし、三原センセーがおっかないばっかりに、しらんぷりしているクラスのみんなもズルいと思うのだった。
きっと、おかあさんは、なにバカいってんのさと怒りだすに違いないと思って、チヅルはみぞおちのあたりを押さえた。また、ジクジク痛んできたのだ。それでも、
「チヅル、今の学校、いやんなった。転校したら、勉強するよ。ちゃんと家の手伝いもするよ。だけど、今の学校はいやだよ」
言葉がとまらなくて、せきこみながらいうと、清子はフンと鼻をならして、
「いいよ。転校さしたげるよ」
あっさりいった。チヅルはびっくりして、思わず顔をあげた。
イヤミをいってるのかと思ったのだったが、清子はぜんぜんイヤミな顔をしていなくて、それどころか泣きそうな顔で、
「学校で、なにかあるのかい？このごろ、調子悪いんだって？おねえちゃんも心配してるよ。チヅルはお調子者だけど、悪い子じゃないよ。お母さん、チヅルの味方さ。転校したいんなら、すぐにさしてやるよ」
怒ったように、口をとがらせて早口にいうのだった。
⑤チヅルはぽかんとして、清子を見返してしまった。清子が、そんなふうにいうとは思ってもみなかったのだった。
「どこの学校、いきたいのさ。お母さん、あした※出面さん休んで、手続きしてやるから」
「いいよ、そんなの。転校しないよ。おかあさん、せっかちだからさァ」
困ってしまって、へらへら笑いながらいううちに、ふと、今度は胸ではなく目のところが熱くなってきた。（　C　）くすぐったいほど、目があつくなってくるのだった。
「目がかゆくなった」
チヅルはあわてて目をこすりながら、へへへと笑った。
「カルピス飲みな。残したゲソ揚げ、明日の朝、食べてもいいよ」
清子もやっぱりテレくさそうに笑いながら、めったに聞かない優しい声でいい、そうか、明日の朝のおかずはゲソ揚げなのか、それはすごいぞとチヅルはすっかり感激して、
「ぜんぶ、チヅルのだよ。おねえちゃんにあげないんだよ」
と念押ししてから、ごくごくとひと息にカルピスを飲んでしまった。

⑥うす味のカルピスはほんのり甘ずっぱくて、胸の奥がすうっとするようだった。

（氷室冴子『いもうと物語』）

※ゲソ揚げ…イカの足を揚げた天ぷら。

※五線譜…五本一組の平行な直線からなる「五線」が上から下に数段書かれている「五線紙」に音符や音楽の記号を書いて楽譜とするもの。

※カルピス…乳酸菌飲料水の名前。

※出面さん…チヅルの母の清子が3月末から9月末までに行っている農作業の手伝いのこと。

問1　（　A　）の中に入る、体の一部を表す漢字一字を入れなさい。

問2　（　B　）・（　C　）に入る語を次のア～エの語群から一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

B

ア　こそこそと　イ　さらさらと　ウ　いらいらと　エ　びくびくと

C

ア　なみなみと　イ　めきめきと　ウ　やすやすと　エ　じわじわと

問3　―①「まるで磁石にひきよせられるように、チヅルのほうを見た」について、

(i)　ここに用いられている表現技法の種類を次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　隠喩　イ　直喩　ウ　体言止め　エ　擬人法

(ii)　なぜ「磁石に引き寄せられるように、チヅルのほうを見た」のですか。その理由の説明として適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　いつも見る方向が決まっていてたまたまそこにチヅルの席があったから。

イ　明らかに声がしたのがチヅルの席だということに確信を持てていたから。

ウ　何か悪いことをするときにはまずチヅルがやり始めると思い込んでいるから。

エ　信頼するチヅルに対して何が起こったのかをまず問いかけようと思ったから。

問4　―②「チヅルは歯をくいしばって、俯いていた」とありますが、この

ときのチヅルはどのような気持ちですか。次のア～エから適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア　クラスの中で自分一人だけの名前を呼ばれたことで、まるでクラスの代表者のように思えて、恥ずかしくてたまらなくなっている。

イ　いつもは気にならないみんなの鉛筆の音がとても気になってきて、自分の試験に集中できないかもしれない、と思えて焦っている。

ウ　先生だけではなくクラスのみんなが自分に敵意を向けてくるようで、緊張感が大きくなり、いたたまれなくなっている。

エ　身に覚えのないことで自分だけ怒られて、クラスのだれもかばってくれず、やりきれない思いをかかえている。

問5　―③「三原センセーもさすがに驚いたのか、顔をあげた」とありますが、「三原センセー」はなぜ「驚いた」のですか。二十五字以内で答えなさい。

問6　―④「おかあさん、チヅル、転校してもいいかな」とありますが、なぜ「チヅル」は「転校し」たいと思っているのですか、解答欄に合わせて、その理由となる箇所を本文中から探し、最初と最後の三字を抜き出しなさい。

問7　―⑤「チヅルはぽかんとして、清子を見返してしまった」のはなぜですか。五十字以内で説明しなさい。

問8　―⑥「うす味のカルピスはほんのり甘ずっぱくて、胸の奥がすうっとするようだった」とありますが、これはチヅルのどのような気持ちを表した表現ですか。その説明として適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　抱えていたもやもやした気持ちが、すべて解決したとは言えないものの、母との会話によって気持ちが軽くなったように感じている。

イ　ずっと不安で仕方なかったところに、母が解決の方法を示してくれたことで、明日からの学校での過ごし方に大きな希望を見出している。

ウ　何もかもうまくいかずいらいらしていたところに、母が持ってきたカルピスのおいしさでいやなことをすべて忘れることができている。

エ　学校であったことをすべて母に話せたことによって、気持ちの整理を何とかつけることができてとてもすっきりしている。

三　次の①～⑤の漢字について、(例)にならって、同じ送りがなを一字つけて、同じ読みになる漢字を次のア～キの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

(例) 断（たつ）―建（たつ）

① 追 ② 謝 ③ 着 ④ 成 ⑤ 説

ア 鳴 イ 次 ウ 就 エ 負 オ 効

カ 解 キ 誤

四 次の①～④のア～エの文の―部の中には、一つだけ他の三つと用法の違うものがあります。違うものを一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

① ア 今年は寒いらしい。
イ 夜はにぎやからしい。
ウ 向こうから来るのはどうも子どもらしい。
エ 中学生になっても子どもらしい遊びをしている。

② ア 父はもう起きるようだ。
イ まるで冷蔵庫の中にでもいるようだ。
ウ 雲がきのこのようだ。
エ あの子は明るくて、太陽のようだ。

③ ア 旅行に行った。
イ そうじは、今、終わったばかりです。
ウ きょうは、忙しかった。
エ かれは、むかし、運動の選手だった。

④ ア 先生が話される。
イ 先生に注意される。
ウ 父に呼ばれる。
エ 犬にかみつかれる。